

## 学校の複合化事例の整理



### (1) 学校と公共施設の複合化事例

<p>名称</p>	<p>志木市立志木小学校（埼玉県志木市）</p>
<p>写真</p>	 <p style="text-align: right;">※文部科学省 HP、志木市 HP より</p>
<p>施設機能</p>	<p>小学校、公民館、図書館</p>
<p>施設概要</p>	<p>床面積：小学校（10,489 m<sup>2</sup>）、公民館（1,704 m<sup>2</sup>）、図書館（1,034 m<sup>2</sup>）</p>  <p>凡例 □ → 小学校 □ → 学童 □ → 図書館 □ → 公民館</p>
<p>建設期間</p>	<p>平成 13 年 6 月～平成 15 年 3 月</p>
<p>総事業費</p>	<p>—</p>
<p>事業の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の南校舎を耐震補強や大規模改修するとともに、仕切り壁を撤去しオープンスペースを設けることで、多様な教育内容に対応。</li> <li>・特別教室（音楽室・理科室・調理実習室・家庭科教室等）について、児童が利用しない時間帯（夜間・休日等）は一般市民に開放。</li> <li>・生涯学習棟（公民館・図書館）では、児童室・研修室・多目的室・和室・ホール・工芸室・陶芸室があり、多世代を対象とした講座の開催や、学校・図書館と連携した事業を展開。</li> <li>・ハードとソフトを組み合わせた柔軟な防犯対策（防犯監視カメラの設置・危機管理マニュアル作成等）による、児童の活動範囲の拡大。</li> </ul>
<p>複合化の特徴</p>	<p>小学校と生涯学習施設（生涯学習館・図書館）の併設により児童と地域社会（市民利用者等）との直接的なふれあいの場を創出。 （地域との連携強化や生涯学習の推進に寄与）</p>

※出典：学校施設の老朽化対策について報告書（文部科学省、H25.3）、新たな学校施設づくりのアイデア集（文部科学省、H22.1）、志木市 HP、学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27.11）


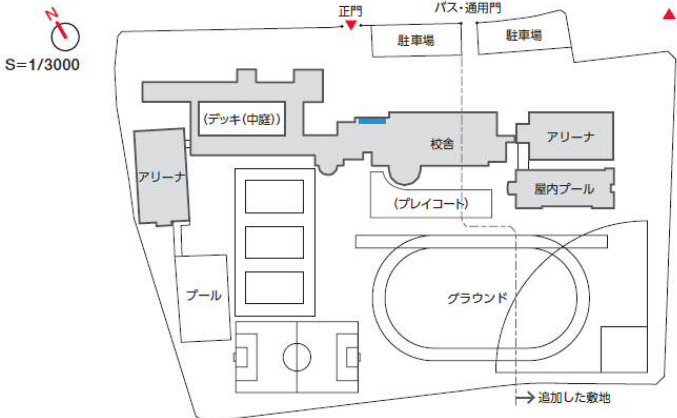
名称	吉川市立美南小学校（埼玉県吉川市）
写真	 <p>※「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」より）</p>
施設機能	小学校、公民館、高齢者ふれあい広場、子育て支援センター、学童保育室
施設概要	<p>床面積：小学校（8,134 m<sup>2</sup>）、公民館（299 m<sup>2</sup>）、高齢者ふれあい広場（182 m<sup>2</sup>）、子育て支援センター（105 m<sup>2</sup>）、学童保育室（358 m<sup>2</sup>）</p> <p>構造：RC造地上3階建て</p> <p>&lt;立面図&gt;</p>  <p>&lt;配置図&gt;</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黄色：小学校</li> <li>茶色：学童</li> <li>緑色：公民館</li> <li>青い矢印：地域</li> <li>水色：老人福祉施設</li> <li>オレンジ色：子育て支援センター</li> </ul>
事業手法	—
建設期間	平成23年9月～平成25年1月
総事業費	—
選定事業者	—
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別教室（音楽室・図工室・多目的室・家庭科室）について、平日の午後6時から午後9時、休日等は一般市民に開放。</li> <li>・1階の中庭は、学校と地域の利用者が自然に交流できるスペースとして設置。</li> <li>・児童と車等が接触しないような動線の配慮、校内児童と高齢者等が衝突しないような一時停止の表示。</li> </ul>
複合化の特徴	<p>小学校、公民館、高齢者ふれあい広場といった地域のニーズに応じた複数の公共施設を一体的に整備。</p> <p>地域利用の施設を1階に集約し、施設管理の負担を軽減</p>

※出典：学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27.11）、吉川市HP

名称	下関市豊北中学校（山口県下関市）
写真	  <p>※文部科学省 HP より</p>
施設機能	中学校、図書館
施設概要	<p>建ぺい率：21.4% 容積率：27.8%</p> <p>敷地面積：39,851 m<sup>2</sup></p> <p>建築面積：8,545.55 m<sup>2</sup></p> <p>延床面積：11,090.04 m<sup>2</sup></p> <p>構造：鉄骨造一部鉄筋コンクリート造地上2階</p> <p>【中学校】</p> <p>10クラス、生徒数311人、教科教室型</p> <p>理科教室、数学教室、社会教室、教科多目的スペース、研究室、調理室、配膳室、家庭科教室、多目的スペース、コンピュータ教室、音楽教室、共通講義室、美術教室、技術教室、剣道場、アリーナ、保健室、校長室、職員室、社会教育課事務室、体育研究室、用具室、管理室、ラウンジ</p>
建設期間	平成16年10月～平成17年12月
総事業費	約28億円（用地費含む）
事業の特徴	<p>&lt;教科センター方式の導入に伴う移動空間の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーニングセンター・図書室、校務、教科教室、特別教室、ホームベースの5つのゾーニングにより空間の目的を明確化。</li> </ul> <p>&lt;生徒同士、生徒と教師の交流を促す、多様な学習空間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化に富んだ施設によって、多様な学習活動が促されるとともに、生徒同士、生徒と教師との交流も活発化。</li> </ul> <p>&lt;地域全体で生徒たちを見守る取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室は地域住民も利用でき、公共図書館としての一面も持っている。図書館担当の市職員が常駐。学校が地域との接点になるよう図書室にはラウンジが併設。</li> </ul>
複合化の特徴	<p>中学校の中心に地域利用可能な図書館（地域図書室）の併設や、体育館・音楽室・美術室・技術室・家庭科室を地域開放施設としてまとめて配置することなどにより、地域の交流活動の拠点として活用。</p>

※出典：これからの小・中学校施設（文部科学省、H22.6）

## (2) 小中一貫教育を実施する学校施設の事例

名称	郡山市立湖南小中学校（福島県郡山市） ※既存中学校の隣接地に小学校校舎を増築し小中一貫教育を実施
写真	 <p style="text-align: center;">※「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について」より</p>
施設機能	小学校、中学校 ※ランチルーム、多目的ホール、語り部の部屋、郷土資料室等を地域交流ゾーンに位置づけ
施設概要	敷地面積：42,633 m <sup>2</sup> 、延床面積：8,364 m <sup>2</sup> 構造：RC造 地上3階 <div style="text-align: right;">                     【凡例】  <span style="color: blue;">■</span> 昇降口  <span style="color: red;">▲</span> 児童生徒が使用する門                 </div>  <p style="text-align: center;">→ 追加した敷地</p>
建設期間	※平成 17 年開校
総事業費	ー
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校の新校舎を既存の中学校の校舎と一体化させて増築。</li> <li>・ 校舎と校庭は一体化したが、小学校の体育館、プールは新たに設置。</li> <li>・ 遊具施設は校庭の校舎付近に置き、小学生が安心して遊べる天然芝生のプレイコートも設置。</li> <li>・ 管理諸室や特別教室は共有しており、管理諸室は校舎中央に、特別教室は利用頻度の高い中学校側に多く配置。</li> <li>・ 増築した小学校棟には、多目的ホールやランチルーム、図書室等の小中の交流を促進する場所を多く設置。</li> <li>・ 小学校校舎の増築には地元の杉材を多く使用。</li> <li>・ 語り部の部屋や郷土資料室等、学校内に地域のコミュニティ拠点としての交流スペースを設置。</li> </ul>

※出典：小中一貫教育に適した学校施設の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27.7）

名称	春日学園（つくば市立春日小学校・春日中学校）（茨城県つくば市） ※人口の急増に伴い施設一体型の小中学校を新設
写真	 <p>※「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について」より</p>
施設機能	小学校、中学校
施設概要	<p>敷地面積：46,628 m<sup>2</sup>、延床面積：14,718 m<sup>2</sup> 構造：RC造 地上3階</p> <p>【凡例】  </p> 
建設期間	※平成 24 年開校
総事業費	—
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通教室棟は、体格差や発達段階、学年ごとの授業運営等に配慮し分棟形式としている。</li> <li>各普通教室棟（3棟）、特別教室棟、体育館棟は全て南北、東西方向に抜けるスクールアベニュー及び2階・3階の渡り廊下によってつながれており、児童生徒・教職員の交流を促進するとともに、大規模校でありながらスムーズな生活動線を確保。</li> <li>特別教室や管理諸室は共用としており、特別教室棟は階によって科学・芸術・メディアといった分野ごとにまとめて配置。</li> <li>管理諸室は、スクールアベニューや校門、各棟出入口を見通せる位置に設置。</li> </ul>

※出典：小中一貫教育に適した学校施設の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27.7）

(3) 参考事例 (PFIによる学校の複合化事例)

<p>事業名称</p>	<p>川崎市黒川地区小中学校新設事業 (神奈川県川崎市) 川崎市立はるひの小中学校【小中連携校】</p>
<p>写真</p>	 <p style="text-align: center;">※「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について」より</p>
<p>施設機能</p>	<p>小学校、中学校、地域交流センター、わくわくプラザ</p>
<p>施設概要</p>	<p>敷地面積：約 30,682 m<sup>2</sup> (うち 7,894 m<sup>2</sup>は増築に伴い追加) 延床面積：約 20,539 m<sup>2</sup> (うち 4,800 m<sup>2</sup>は増築 (H26))</p> <p><b>【小中学校】</b>          クラブルーム、半屋外・屋外テラス、オープンスペース、多目的室、ワークスペース、教材コーナー、小教室、教師コーナー、図書コーナー、ベンチコーナー、談話コーナー等、学年クラスターごとに設定          中学生対象：教科教師ステーション、共通教室、教科教室・特別教室 (国語・数学・社会・英語・理科) 特別支援室、管理諸室、創作系特別教室 (図工・美術・技術)、メディアセンター (図書・コンピュータ)          屋内体育施設：小中学校共通 (一般開放)</p> <p><b>【地域交流センター】</b>          多目的ホール、コミュニティサロン、調理室、ミーティングルーム</p> <p><b>【わくわくプラザ】</b>          「小学校施設を活用した児童の健全育成事業」(わくわくプラザ事業)の実施場所として、屋内体育施設、グラウンドを使用</p> <p><b>【凡例】</b>          S=1/3500          増築棟 (灰色)          昇降口 (青)          ▲ 児童生徒が使用する門 (赤)</p> 

事業手法	PFI 方式 (BTO)、サービス購入型
事業期間	17.5 年 (設計建設 : 約 2.5 年、維持管理運営 : 15 年)
業務範囲	施設の設計・建設・工事監理、維持管理業務並びに運營業務の一部
総事業費	約 55 億円
VFM	約 9 %
選定事業者	代表企業 : UFJ セントラルリース 構成企業 : 松井建設、豊建築事務所、ハリマビシステム、東洋食品、コクヨ、総合警備保障
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発 (ニュータウン) に伴う児童生徒数の急増に伴う、小中学校の合築事業。あわせて、地域貢献施設も併設。</li> <li>※運營業務 : 小学校給食、中学校・地域交流センターのランチサービス (有料 : 400 円/1 食)</li> <li>※地域交流センター : 地域の市民活動の拠点施設</li> <li>※わくわくプラザ : 児童の健全育成事業</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 20 年に開校後、当初予想を上回って児童生徒数が増加したため、平成 26 年 4-3-2 の学年段階の区切りを保つような増築・改修を実施。校舎は中庭を取り囲む 4 棟に加えてグラウンドに E 棟を増築し敷地も拡充。</li> <li>・ 小中の職員室 (校務センター) を一体化し、校門、中庭、校庭が見渡せる B 棟 1 階に配置し、A 棟 1 階には、地域交流センター、わくわくプラザ等を設け、学校が地域コミュニケーションの核として機能できる整備を実施。</li> <li>・ 児童生徒の発達段階に応じて空間構成や教室環境に特色や変化を付けており、中学部では教科教室型を導入。</li> </ul>
複合化の特徴	小中学校と地域交流センターの併設により児童・生徒と地域社会 (市民利用者等) との直接的なふれあいの場を創出。 (地域との連携強化や生涯学習の推進に寄与)

※出典 : 日本 PFI 協会 HP、PFI インフォメーション、川崎市 HP、小中一貫教育に適した学校施設の在り方について (学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27. 7)

事業名称	(仮称) 八千代市立萱田小学校分離新設校及び総合生涯学習施設整備・運営事業 (千葉県八千代市)
写真	 <p style="text-align: right;">※八千代市 HP より</p>
施設機能	小学校、生涯学習施設
施設概要	延床面積：約 11,600 m <sup>2</sup> (合築) 【小学校】約 5,900 m <sup>2</sup> 普通教室 18 クラス、特別教室 10 クラス 【生涯学習施設】 生涯学習センター、スポーツレクリエーション施設 【共用施設】約 5,700 m <sup>2</sup> アリーナ (体育館)、温水プール、特別教室 (パソコン室等)
事業手法	PFI 方式 (BTO)、サービス購入型
事業期間	約 17 年 (整備約 2 年、維持管理・運営約 15 年)
業務範囲	複合教育施設の整備・維持管理・運営 運營業務内容： 施設一般開放に係る受付予約業務、生涯学習に係る市民講座の企画・開催業務、プール運営、警備業務等
総事業費	約 50 億円
VFM	約 29%
選定事業者	代表企業：鹿島建設 構成企業：セントラルスポーツ、鉄建建設、日本水泳振興会、ハリマビシステム
事業の特徴	市街地開発により人口増となったエリアにおける拠点としての施設整備を行う事業。 コミュニティの核として、小学校と生涯学習施設の合築が計画された。 共用施設は、学校側の利用時間を優先して確保したうえで、民間事業者が自由にプログラム等を企画・運営している。
複合化の特徴	体育館、温水プールの利用時間帯の区分による小学校と地域との共同利用など、小学校と生涯学習施設の併設により児童と地域社会 (市民利用者等) との直接的なふれあいの場を創出。 (地域との連携強化や生涯学習の推進に寄与)

※出典：日本 PFI 協会 HP、PFI インフォメーション、八千代市 HP



事業名称	市立つるせ台小学校、市立図書館鶴瀬西分館及び市立つるせ台放課後児童クラブ整備並びに維持管理運営事業（埼玉県富士見市）
写真	 <p style="text-align: right;">※富士見市 HP より</p>
施設機能	小学校、図書館分館、放課後児童クラブ
施設概要	延床面積：約 9,000 m <sup>2</sup> （分築：図書館を別棟としている） 【小学校】約 5,900 m <sup>2</sup>
事業手法	PFI 方式（BTO）、サービス購入型
事業期間	約 16 年（整備約 2 年、維持管理・運営約 14 年）
業務範囲	複合教育施設の整備・維持管理・運営
総事業費	約 27 億円
VFM	約 13%
選定事業者	代表企業：UFJ セントラルリース（現三菱 UFJ リース） 構成企業：首都圏リース、楠山設計、戸田建設、埼玉建興、ビケンテクノ、図書館流通センター
事業の特徴	少子化の影響による児童数の減少と施設の老朽化等に対応し、教育環境の向上と老朽施設の改善を早期に実現するため、鶴瀬西小学校と上沢小学校を統合した市立つるせ台小学校の整備を行う。 合わせて当該学校施設と市立図書館鶴瀬西分館及び「市立つるせ台放課後児童クラブ」を複合した施設を新設し、維持管理・運営を行う。 小学校と図書館分館は、動線上明確に分離。
複合化の特徴	小学校と図書館分館の併設により児童と地域社会（市民利用者等）との直接的なふれあいの場を創出。（生涯学習の推進に寄与） 放課後児童クラブの併設により児童サービスの向上が期待される。

※出典：「複合化公立学校施設 PFI 事業のための手引書」（平成 16 年、文部科学省）、日本 PFI 協会 HP、PFI インフォメーション、富士見市 HP

事業名称	市川市立第七中学校校舎・給食室・公会堂整備等並びに保育所整備 P F I 事業、市川市ケアハウス整備等 P F I 事業（千葉県市川市）
写真	 <p>※市川市HPより</p>
施設機能	中学校、保育所、文化ホール、ケアハウス、デイサービスセンター
施設概要	<p>延床面積：中学校（7,486 m<sup>2</sup>）、文化ホール（3,077 m<sup>2</sup>）、保育所（611 m<sup>2</sup>）、ケアハウス（2,468 m<sup>2</sup>）、老人デイサービスセンター（393 m<sup>2</sup>）</p> <p>&lt;立面図&gt; <span style="margin-left: 200px;">&lt;配置図&gt;</span></p>  <p>凡例  <span style="color: green;">→</span> 中学校  <span style="color: pink;">→</span> 保育所  <span style="color: orange;">→</span> 老人福祉施設  <span style="color: blue;">→</span> 文化ホール  <span style="color: red;">→</span> 給食室</p>
事業手法	P F I 方式（B T O）、サービス購入型
事業期間	15 年
業務範囲	市立第七中学校の校舎のうち、A 棟並びに給食室を建替え、余裕容積を有効活用して、公会堂、保育所等を新設した複合施設として整備し、維持管理ならびに運営を行う。
総事業費	約 47 億円
V F M	約 30%（従来方式より約 30%のコスト縮減）
選定事業者	代表企業：大成建設 構成企業：日本設計、スターツ、上條建設、柏井福祉会
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアハウス等の運営業務は P F I 事業者が実施。保育所は P F I 事業者が選定した社会福祉法人与市が賃貸借契約を締結。</li> <li>ケアハウス等事業は、市と P F I 事業者が普通財産賃貸借契約を締結し、事業者は市に賃料を支払い、維持管理費用等を負担する独立採算型事業。</li> </ul>
複合化の特徴	<p>中学校、保育所、文化ホール、ケアハウス等を 1 施設とすることで多世代の交流に向けた地域の拠点として整備。</p> <p>屋上庭園で園児と高齢者の交流イベント（芋掘り）の実施や、ケアハウス入居者の学校図書室の利用など、相互利用・交流活動を実施</p>

※出典：「複合化公立学校施設 P F I 事業のための手引書」（平成 16 年、文科省）、日本 PFI 協会 H P、PFI インフォメーション、学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27. 11）

#### (4) 参考事例（指定管理者制度の活用による学校の活用事例）

名称	かほく市立宇ノ気中学校（石川県かほく市） ※学校内に整備した市立体育館を指定管理者が管理
写真	 <p>※学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27. 11）</p>
施設機能	中学校、市立体育館
施設概要	<p>延床面積：12,770 m<sup>2</sup> 中学校（8,283 m<sup>2</sup>）、市立体育館（4,488 m<sup>2</sup>） 構造：RC+S 造 4 階</p> <p>&lt;立面図&gt;</p>  <p>&lt;配置図&gt;</p>  <p>凡例 ○ → 中学校 → 地域 → 社会体育施設</p>
事業手法	—
建設期間	平成 16 年 10 月～平成 18 年 2 月
総事業費	—
選定事業者	—
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合型地域スポーツクラブの人材が学校のゲストティーチャーとして招かれ、生徒は学校の体育の授業で、ヨガやエアロビクスなどを体験することができる。</li> <li>・ スポーツクラブの人材が、部活動の外部指導者として支援している。</li> <li>・ 学校開放の予約や受付も指定管理者が行うことにより、地域住民は比較的容易に利用できる。</li> <li>・ 生徒及び地域住民が混在するアプローチとしている。（地域と生徒とのふれあいが生まれ、防災上の利点も多いと判断）</li> </ul>
複合化の特徴	体育館を社会体育施設として整備し、総合型地域スポーツクラブが指定管理者として管理運営することにより、学校の教育活動が活性化。

※出典：学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、H27. 11）